

○ 新たな施策の要望又は提案を求めるもの

区分	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 再提案 (. . . 第 回総会 ; 市)		
種類	<input type="checkbox"/> 現行制度の改善又は拡充を求めるもの <input checked="" type="checkbox"/> 新たな施策の要望又は提案を求めるもの <input type="checkbox"/> 特に市町村への財政支援策等を求めるもの <input type="checkbox"/> その他 ()	分野	<input type="checkbox"/> 総務文教 <input checked="" type="checkbox"/> 社会環境 <input type="checkbox"/> 経済 <input type="checkbox"/> 危機管理建設
要望先	<input type="checkbox"/> 国	担当省庁	
	<input checked="" type="checkbox"/> 県	担当部局	健康福祉部
	<input type="checkbox"/> その他	名称	
件名	16 自分の望む人生の最終段階における医療・ケアについての意思表示の取組の普及について		
提案市	須坂市		
提案要旨	人生の最終段階における医療やケアについて、元気なうちから自分の望みを書き記すことにより、その人の意思が尊重されることから、アドバンスケアプランニング(人生会議)による「生前の意思表示(リビング・ウィル)」について、広く普及が図れるよう研修会の開催と県民への周知を要望する。		
提案理由	超高齢社会により高齢多死社会の進行に伴い、厚生労働省は「人生の最終段階における医療・ケア」について住民や医療介護従事者等に対し、本人の希望を尊重する重要性を示しているが、「人生の最期」について考える機会は少なく、また、どの様に話をすればよいか迷うことも多い。 本人と家族、医療や介護従事者などが話し合う「アドバンスケアプランニング」による「生前の意思表示(リビング・ウィル)」が全県的な取組となるよう要望する。		
現況及び課題等	厚生労働省では、平成30年3月に終末期医療の治療に関する決定手順を定めた国の指針を改定し公表し、その中で、「自分が大切にしていることや希望する医療・ケアについて、周囲の信頼できる人と話し合う重要性を明記している。普及啓発パンフレットの作成や11月にはわかりやすい愛称を募集し「人生会議」としている。 日本医療政策機構が実施した2018年日本の医療に関する世論調査では「身近な人と終末期医療について話し合いたい」とする人は66.4%、実際に「話あったことがある」とした人は25.4%で乖離が大きいことが示されている。 須坂市、小布施町、高山村では、医療、福祉、介護、行政関係者でつくる「須高地域医療福祉推進協議会」を設立し、後顧なき人生支援のために平成24年度から「終末期医療・ケアについての生前の意思表示」のリーフレットを作成し普及を行っており、「須高地域医療福祉を考える集い」や福祉施設などの家族会、人権学習会などで紹介している。また、平成25年度には、リビングウィルと併せて財産や葬儀のことなどをまとめる「エンディングノート」を作成し、市民への周知のため「活用講座」を開催している。		
法令関係	「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」改訂平成30年3月 (厚生労働省)		